

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2870800436		
法人名	社会福祉法人 恵生会		
事業所名	グループホーム桃山台		
所在地	神戸市垂水区桃山台5丁目1144番地 (電話) 078-751-0006		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算	5.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	(有) (156,000円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		850 円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.63 歳	最低	60 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	余医院
---------	-----

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム桃山台は神戸市垂水区の閑静な住宅街の山手にあり、緑豊かな山が見え、周辺には商店や小学校、公園がある。ホームは一軒家で、1ユニット8人で共同生活している。玄関を入ると、広いスペースに花や置き物が並べあり、笑顔で利用者が迎えてくれる。内装は、木造建築を思わせるような自然な感じで、共有スペースの天井は広く、開放感が感じられる。理念に掲げている「ゆったり」「楽しく」「自由に」「その人らしい」生活の具現化を職員全員で話し合い取り組んでいる。法人内の特別養護老人ホーム、デイサービスセンターと連携をとりながら支援している。また、終末期ケアや感染症予防にも力を入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の評価の中で「介護計画の見直し」が指摘されていたが、職員会議、担当者会議、カンファレンスで「介護計画の見直し」が検討され、具体的な内容が追加されていた。また、見直し・確認の時期については引き続き検討を重ねている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価票は管理者を中心に職員全員で取り組んで、作成した。その中で、職員や管理者それぞれの課題が見えてきたため、現在その課題に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議を重ねることで、職員のホームの理解、地域との関係が深まってきている。今年の会議では、さまざまな立場・役割を持つ参加者が運営方針、感染症対策、災害対策を検討している。また、その内容は利用者や家族にも伝えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族に対して、ホームの状況や利用者の暮らしぶり、健康状態など個々の状況を訪問された時に伝えている。家族が来られない場合は、電話・FAXで状況を説明している。預かり金については、個人ごとに小さな手帳にまとめ、家族への定期的な報告と確認を得ている。苦情については、意見箱を置いているが活用頻度が少ないため、今後の工夫が期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 近くには、幼稚園や小学校があり、交流会、夏祭り、ふれあい喫茶の参加を通じて地域の住民と交流を深めている。また、よく買い物や散歩に出かけることから知人や親族に出会うことがある。「ももだより」「ぴーちめーる」通信を配布し、地域の方々に対してホームへの理解を深めてもらえるよう努めている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として、「ゆったり、楽しく、自由に、その人らしく」をあげている。特に、利用者自身の生活の自由を奪わないために、どのような対応が必要なのかを、日々の生活の中で指針や方針について話し合っている。		グループホームが地域密着型サービスとして位置付けられ2年が経過したこともあり、現在の理念を踏まえながらも、地域住民の目に見える形で地域密着型のグループホームとしての理念を検討することが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家族が来られた時にすぐに分かる位置にホームの理念が掲示してある。また、事務所内にも職員の目に届くよう大きく掲示している。職員会議でも話し合われるが、自分たちの理念を確認・意識付けするために、日誌・自分のノートに記載している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事、幼稚園・小学校との交流会、夏祭り、ふれあい喫茶の参加、地域のボランティアを通して、地域住民との交流を深めている。また、買い物や散歩の際に、知人や親族に会った際には、挨拶や立ち話をすることが多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は管理者を中心に職員全員で取り組んで、まとめたものである。また、前回の評価結果の課題は、職員会議の重要な議題としてとりあげ、改善に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議でも話し合われ、民生委員や家族にも報告している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヵ月に1度開催している。事業所の代表が運営の状況を説明したり、利用者や家族の代表が意見を述べるなど毎回それぞれの立場から提案が行われ、その提案について事業所代表が検討し、次回の会議で具体的な方策が話し合われている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者に対して、定期的に運営推進会議の報告を行なっている。また、地域包括支援センターから連絡や報告を行なっている。</p>		<p>さらなる市町との連携として、市担当者に来てもらい、現状や課題を説明するなどホーム側からアクションを起こし、日ごろからの関係構築が期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>法人機関紙として「ももだより」、ホームからは「ぴーちめーる」通信を発行し、家族に届けている。利用者の生活状況は、家族がホームに来られた時に詳しく説明している。また、家族が来られない場合は、電話やFAXで定期的に報告するようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱や運営推進会議から家族の意見や要望を集め、職員会議で具体的な取り組みを検討している。また、年に2回、家族にホームに来てもらい、カンファレンスを実施している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職や異動は少ない。ホームでは、担当制を実施しており、退職者が出る場合には、利用者や家族に十分説明して理解を求めている。また、新人職員はレポートを提出し、他の職員と意見交換をしながら利用者の対応を考えている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の勤務体制に配慮し、認知症介護実務者研修やリーダー研修を受講するように勧め、費用はホームが負担している。また、法人が定期的に主催する施設内研修にも毎回数名の職員が参加している。研修案内は職員会議時に伝えるか、掲示物で知らせている。</p>		<p>さらなる研修体制の充実を図るために、ホーム内の職員や併設の特別養護老人ホームの職員が講師となって勉強会を開催したり、年間の研修計画を作成するなど、長期的なビジョンの展望が期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括支援センターが主催する地域連絡会に参加している。他のホームの職員が集まる場となり、お互いに情報の交換を行なっている。時には、他ホームの見学を行っている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前には面談を何度も繰り返し、本人が望む生活環境が得られるよう努力をしている。また、利用者が今までと変わらない生活ができるように本人の家具・用具の持ち込みを勧め、快適な生活空間を作れるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は、一緒に買い物に出かけ、料理や洗濯をしたり、共に生活していく仲間として関係を築いている。その中で、普段からのなにげない会話を大切に、利用者の過去の経験や知識から多くのことを学んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりのニーズを把握するために個別に時間を設け、きめ細やかな対応を心掛けている。本人から意向が聞き取れない場合は、しぐさや表情から思いを汲み取ることに努めている。また、焦点情報(24時間生活変化シート)、近況報告書などから情報を集めている。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は職員会議や担当者会議の中で出た意見を参考に作成している。また、ケアカンファレンスの際には、家族に参加してもらい、家族や利用者の希望に沿った介護計画を作成している。</p> <p>家族、利用者の思いが介護計画の中に反映されていることが分かるように工夫している。</p>		<p>引き続き記録の内容を整理しながら適時の見直しを行い、実情にあった、誰が見ても分かりやすい介護計画になるように取り組みを継続することを期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、状況や時期に応じて実施している。前回の第三者評価の結果を受けて、介護計画の見直しを実施し、気づいた点はモニタリング記録用紙を設け、記載している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院の際の送迎、外出する際の送迎など利用者の生活に支障がでないように配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者や家族の要望に沿って、嘱託医や入居前からのかかりつけ医との関係を築いている。体調の変化や緊急性が伴う場合には、家族の同意のもと、往診を依頼したり、地域の医療機関に受診できる体制が整っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>職員との連絡ノート、家族面談やケアカンファレンスを通じて、利用者の終末期のあり方について本人や家族から希望を聞き、嘱託医とも話している。その対応や方針は職員会議で毎回報告している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人内の高齢者虐待の研修会に参加している。また、利用者心地よく、安心して生活していただけるように、利用者に対する言葉かけ、羞恥心に配慮している。記録の置き場所には配慮し、個人情報の保護には注意を払っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の始まりから就寝まで、個々の利用者の生活スタイルに合わせて、できるところまで見守り支援をしている。特に、食事、入浴、散歩、買い物など利用者のペースを大切にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>			
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴に関しては、曜日や時間帯は決まっていないため、好きな時間に入ることができる。その日の利用者の様子、雰囲気、気分、一人ひとりの希望に合わせて、状況を判断し、支援を行っている。要介護度が高い利用者の場合、シャワー浴をするなど体の清潔を保つよう心がけている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>毎朝、新聞を取りに行ったり、洗濯物を畳んだり、洗い物をしたり、花に水をあげたり、それぞれの役割を職員が把握して、その時々声掛けて、利用者の能力を引き出す支援をしている。</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物は近くのコープに行っている。散歩は公園や近隣周辺を歩いている。車椅子の方も出かける。行事があるときには近くの神社に行く。利用者の積極的な姿勢を損なわないように注意しながら支援をしている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援						
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関の鍵は掛けていない。玄関には、センサーが付いており、ドアが開くとチャイムが鳴るシステムが設置されている。利用者や介護者が外出する際には、必ず一声かけ、お互いに確認をしてから外出するようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>利用者や家族、併設の特別養護老人ホームの職員に災害時の対応を説明をしている。火災時の対応として、防火訓練や消防署との連携が定期的にとられている。近隣の介護老人保健施設と災害時には相互協力を行うことを確認している。また、運営推進会議を通じて地域住民にも協力を依頼している。</p>		<p>併設の特別養護老人ホームでも地震対策等が話題になっていることもあり、グループホームにおいても地震対策についても火災対策と同等の認識を持ち、防災訓練に取り組まれることを期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の栄養管理は、管理栄養士の指導のもと行われ、バランスのとれた食事を提供している。また、食事チェック・水分チェック表を作成し摂取量を確認している。摂取量が少ない利用者には食事の内容を変えてみたり、摂取時の状態を確認し、支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースにはテーブル、ソファがあり、畳部屋には掘りごたつがある。天井は高く開放感があり、利用者や職員がゆったりと過ごせるように、テーブルに花を飾るなど家庭的な雰囲気に配慮している。テレビを長時間つけっぱなしにせず、CDラジカセなどを併用しながら利用者全体に配慮できるよう心がけている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室のスペースは広く設計されており、ものが置きやすい。利用者は、自宅から馴染みのテーブル、ソファ、テレビや電話などを持ち寄り、過ごしやすい空間作りに力を入れている。</p>		

 は、重点項目。